

令和5年度 学校評価アンケートの結果を受けて (分析と課題)

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けていますが、更なる教育の環境整備と質的向上、ひいては教育成果の向上のために、保護者の皆様、在籍生徒、教職員を評価者とする学校評価アンケートを実施しております。

この度、集計結果に分析（本校各部長）を加え本書面をまとめました。本校が目指す学校像をご理解いただくとともに、今後の益々のご協力を賜りたく、是非ともご高覧くださいますようお願い申し上げます。

【回答数】 令和5年12月実施

対 象	回答数
生 徒 (897中)	825
保 護 者	584
教 員 (80名中)	80

1. 生徒の悩みや相談に対して、適切な対応をするなど、「生徒一人ひとりを大切にする教育」に努めていると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	23.8%	25.2%	30.0%
少しそう思う	40.9%	40.6%	45.0%
どちらともいえない	27.6%	22.7%	21.3%
あまりそう思わない	6.7%	8.2%	2.5%
全くそう思わない	1.0%	3.3%	1.3%

(分析と課題)

・保護者生徒共に肯定的回答が昨年より減っている。欠席連絡などをBLENDなどのツールにのみ頼り数字を残すのみ終わってしまい、もう一步踏み込んだ直接連絡を怠ってはいなかったか振り返る必要がある。生徒一人ひとりを大切にする教育の実現のために、教職員が生徒や保護者とのかかわりを深く持ち、連絡をさらに密にしていく必要性を感じる。

・生徒と教員間のコミュニケーション不足が原因となっている可能性もある。生徒の成長を考えると、生徒指導方針を大きく変えることはできないが、生徒の気持ちに寄り添いながら、声かけや面談を充実させるなど配慮し生徒指導にあたっていきたい。

2. 個性や適性に応じて進路情報を提供するなど、進路目標達成のために細やかな指導をしていると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	27.7%	36.0%	33.8%
少しそう思う	40.2%	40.2%	50.0%
どちらともいえない	26.0%	17.5%	13.8%
あまりそう思わない	5.1%	4.8%	1.3%
全くそう思わない	0.9%	1.5%	1.3%

(分析と課題)

・3学年の保護者満足度割合は昨年度に比べて上昇しているが、生徒の方は過去5年で最低レベルとなっている。しかし、満足度を示す生徒の実数で見ると253名中194名ということで過去最大数の生徒が満足群にいる。尚、昨年度は184名ということで、昨年比+10となっており前向きな評価と言えるのではないか。また、保護者も過去最大数の満足度群である。

生徒数が増えているので、どうしても全体に対する満足群の割合は減るが、現状の体制としては着実に成果を出していると言える。

コース別で見ると同様のことが言える。しかし、特進コースの満足群に着目する必要がある。保護者の「かなりそう思う」の割合が19%減る一方で、「少しそう思う」が同程度増えている。生徒の傾向も同じである。つまり、満足群を示す数は多いが、その数字の質は低下しており、もっと手をかけてもらいたいと願う保護者・生徒が一定数いると言える。

他のコースについては大きな変化はない。

3. 「学びを実感できる授業」の取り組みを推進し、「思考力」「行動力」「想像力」を養成する教育を実践していると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	16.4%	24.4%	13.8%
少しそう思う	43.3%	43.4%	57.5%
どちらともいえない	34.6%	23.4%	26.3%
あまりそう思わない	5.0%	7.0%	1.3%
全くそう思わない	0.7%	1.8%	1.3%

(分析と課題)

・昨年度まであった授業に関する質問項目を第3項、第4項の二つに分けている。今年度から新設された質問項目となる「学びを実感できる授業」の生徒満足度、保護者満足度は、昨年度

での授業満足度とはほぼ同様の満足度となっている。コース別の生徒満足度では、普通コース生徒の満足度が高く、特進コース生徒の満足度が低めとなっている。

教員に関しては、第4項の「わかりやすい授業工夫」と比べると「5」の評価が少なく、「学びを実感できる授業」を課題として自覚しているものと思われる。

4. クロームブックやパソコン、電子黒板・プロジェクターを積極的に活用し、わかりやすい授業の充実が図られていると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	27.2%	35.9%	37.5%
少しそう思う	47.3%	39.0%	47.5%
どちらともいえない	21.4%	17.3%	11.3%
あまりそう思わない	3.6%	5.7%	3.8%
全くそう思わない	0.5%	2.1%	0.0%

(分析と課題)

・昨年までの授業に関する質問項目でもあった「わかりやすい授業の工夫」を引き継いだ項目である。「5」の評価が昨年よりも保護者が14%、生徒が13%、教員が8%の上昇となっている。質問項目を「学びを実感できる授業」と区別したため、「わかりやすい授業の工夫」について評価しやすくなったからだと考えられる。

これらの結果から、「わかりやすい授業の工夫」をしてきていると、生徒自身が思っていることが読み取れる。

第3項、第4項を合わせて考えるならば、「わかりやすい授業」を引き続き工夫しつつ、「学びを実感できる授業」をどう構築していくかがこれからの課題になると思われる。

5. ホームページの更新やクラス通信（BLEND配信を含む。）を通じて、保護者及び関係地域組織に積極的に教育活動の共有を行っていると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	30.7%	30.8%	35.0%
少しそう思う	45.4%	38.5%	33.8%
どちらともいえない	17.5%	24.4%	21.3%
あまりそう思わない	6.0%	4.6%	7.5%
全くそう思わない	0.5%	1.7%	2.5%

(分析と課題)

・BLENDは保護者との情報共有（成績や出席など）がリアルタイムで行えるため、保護者と教員間で生徒についての状況共有を行いやすくなったと感じる。

一方、BLEND上で保護者へ情報を配信してもなかなか既読にならないご家庭もあり（これ

は学年が上がるにつれて増える傾向にある)、保護者に対し、日常的にBLENDで子どもの状況を把握してもらうよう、声掛けしていく必要性を感じる。

・ホームページは、部活動や生徒会の顧問・生徒が定期的に情報を掲載しており、更新の頻度は県内の高校で最も高いと思われる。また、保護者・地域の方・中学生等に加えて、他校の教職員の訪問も多いページとなっている。県内に先駆けた新しい取り組みを行う学校として、今後も積極的な情報発信を行っていきたい。

6. 将来、自立した社会生活を送るうえで必要な、自覚や自律心を育むための適切な生徒指導を推進していると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	16.3%	27.3%	23.8%
少しそう思う	44.3%	42.9%	47.5%
どちらともいえない	32.2%	21.0%	23.8%
あまりそう思わない	6.8%	6.9%	3.8%
全くそう思わない	0.3%	1.9%	1.3%

(分析と課題)

・SNS上のトラブル防止に向けて、マナーを守って正しく使えるように、使用マナーを含めた人間関係の構築に関して深く考えさせる企画を継続してつくる必要がある。情報処理の授業などを通して情報モラルについても、継続的な指導を行っていききたいと考えている。

・生徒のモラル教育だけではなく保護者の協力も必要なので、保護者も参加できる研修会を取り入れていく必要がある。

・校外での立ち居振舞や登下校におけるマナー、その他の公共マナーに関して、更なる指導を継続する必要がある。

・交通安全教室や交通安全講話などを通して、生徒の意識改革に取り組んでいきたい。

・積極的なあいさつやきちんとした服装頭髪、交通ルールについて、多くの生徒ができています。しかし、一部であるが、意識の低い生徒も見られる。今後、指導の徹底や工夫改善が必要である。

7. 安心して通える学校を目指し、いじめ・暴力・強要・いやがらせなどを許さない指導をしていると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	18.8%	28.4%	33.8%
少しそう思う	38.4%	37.6%	46.3%
どちらともいえない	32.9%	22.2%	18.8%
あまりそう思わない	7.2%	8.6%	1.3%

全くそう思わない	2.7%	3.3%	0.0%
----------	------	------	------

(分析と課題)

・今年度も、いじめ発見防止アンケート(6月、11月)やQU(教育心理検査:6月実施)、本人の訴え等から、いじめが疑われる場合には、速やかに関係する生徒の聞き取りを行うとともに、ご家庭にも連絡をとりながらスピード感をもって丁寧に対応するように心がけてきた。また、表面的に収まったように見えても解決したと判断せず、継続的な見守りと支援を行ってきた。引き続き、学校・保護者・関係機関と連携しながら「いじめ根絶」を目指して取り組んでいく。

・学校不適応を早期に発見し対応するため、情報交換会、カウンセリングの充実等、教育相談機能の充実に努めた。生徒の抱える問題は多岐にわたっている。生徒それぞれに寄り添い、問題の早期発見や自己肯定感を向上させる取り組みを根気よく継続することが必要である。

8. 部活動への積極的な参加を勧め、主体性と健康を育むための充実した部活動が出来るよう努力していると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	23.6%	32.8%	26.3%
少しそう思う	35.8%	37.8%	46.3%
どちらともいえない	29.5%	22.4%	23.8%
あまりそう思わない	7.5%	5.2%	3.8%
全くそう思わない	3.6%	1.7%	0.0%

(分析と課題)

・ここ数年生徒会行事や部活動を保護者に見てもらう機会が少ないが、HPでの活動報告、部活動ごとの配信等工夫したのが良かったのではないか。

・茶道部、華道部、メディアクリエイト部、eスポーツ部、ダンスドリル部などの文化部も外部活動、コンテスト参加、文化部衣創科合同展、他校とのコラボなど積極的な活動を展開し評価を得た。

・施設面で不便をかけてる点は否めない。

・本校には熱心な指導者が数多くいるので、コロナ禍を抜ければ、状況も良化してくるものと考えてる。

9. クラスマッチや学園祭等の生徒会行事を通じて仲間づくりや集団での取り組みを大切にしよう努力していると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	40.1%	46.5%	42.5%

少しそう思う	44.3%	35.8%	42.5%
どちらともいえない	13.4%	12.8%	13.8%
あまりそう思わない	1.9%	4.2%	1.3%
全くそう思わない	0.3%	0.6%	0.0%

(分析と課題)

・「行事」は、その活動を通して生徒と教師が深い関わり合いを作り、「信頼関係」を築くかっこうの場である。

(行事成功のポイント)

- ① 生徒の本音と力量を教師がきちんと理解する。
- ② 生徒の「やる気」や「意欲」を引き出す。生徒に任せっきりになることは、一見「自主性の尊重」にも見えるが、見方を変えれば「放任」である。生徒の自主活動を援助しながら育成していかなければならない。
- ③ 生徒の活動のささやかな前進を「認め」、「喜ぶ」などの自覚を教師側は持つ必要がある。

・5類に移行して様々な制限がなくなった中で生徒は生き生きと活動出来た。学園祭は県民ホールを使用しての開催2年目となり定着してきた。予算オーバーの反省もでたので来年度は使用方法、時間など検討を要す。

10. 各学年で朝読書や朝学習、漢字学習を実施するなど、言語活動の充実を図り、心豊かな人間の育成に努めていると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	23.5%	34.7%	21.3%
少しそう思う	43.2%	41.8%	50.0%
どちらともいえない	31.2%	17.0%	22.5%
あまりそう思わない	1.9%	4.7%	5.0%
全くそう思わない	0.3%	1.8%	1.3%

(分析と課題)

・朝読書や朝学習など学年ごとに朝の時間を工夫して取り組んでいる。「4」「5」の生徒評価が昨年より6%以上上昇し75%をこえている。生徒にとって、自らの世界を広げる朝読書や進学や就職を見据えた進路対策として朝学習など通常の授業とは違った学びの場として実感されていると思われる。

11. PTA活動や地域の清掃活動、除雪ボランティアなど、保護者や地域との連携を大切にする教育活動を推進していると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	13.2%	28.7%	18.8%

少しそう思う	39.9%	37.6%	45.0%
どちらともいえない	41.1%	26.2%	30.0%
あまりそう思わない	5.3%	5.6%	5.0%
全くそう思わない	0.5%	1.9%	1.3%

(分析と課題)

・コロナ禍が明けて徐々に活動を開始しようとしているがコロナの波やインフルエンザなどで、まだまだPTAとの連携は難しい。結果として「どちらとも思わない」「少しそう思う」多いのではないか。

生徒による地域清掃活動については定期的に開催し地域住民から感謝されてる。

来年度も感染状況と確認しながら活動していきたい。(現在、愛知県ではコロナ感染第10波が来ている。)

12. 学校は、感染症予防対策に努めていると思いますか。

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	24.1%	29.8%	32.5%
少しそう思う	42.8%	40.0%	42.5%
どちらともいえない	24.8%	19.2%	18.8%
あまりそう思わない	7.4%	8.7%	6.3%
全くそう思わない	0.9%	2.3%	0.0%

(分析と課題)

・感染予防対策には常に敏感に取り組んでいる。手指消毒は生徒の目に入る箇所に設置しており、環境保健委員会でも通信を作成し協力を得ていることから結果として各コースの生徒・保護者から高評価を得ている。

(参考) 本校における令和5年度の新型コロナウイルス感染者数

148名(職員と生徒): 令和6年2月6日現在

13. 榎山高等学校は楽しいですか。(楽しそうですか。)

	保護者	生徒	教員
かなりそう思う	37.3%	27.5%	22.5%
少しそう思う	38.9%	36.8%	53.8%
どちらともいえない	16.4%	24.5%	22.5%
あまりそう思わない	6.0%	6.9%	0.0%
全くそう思わない	1.4%	4.2%	1.3%

(分析と課題)

・コースごとの生徒の回答を見ると、「楽しい」順に「普通」⇒「商業」⇒「衣創」⇒「特進」となっている。普通科は部活動加入率も高く、自分が主体となり活動できる場が多いことが一因ではないだろうか。

また、保護者の回答をコース別に見ると、生徒とは順位も比率も異なっているが、おしなべて生徒よりも保護者の方が「楽しい」という回答が多いところが興味深い。

高校生くらいになると、周囲との人間関係や進路への取り組みなど、置かれた状況に応じて自己を変化・向上させていくこと(=社会化していくこと)が求められるが、生徒の回答と保護者の回答との乖離はこれを表すものとなっているように思われる。

つまり、「親」である保護者にとって生徒はいつまでも「子ども」であり、「楽しく」振る舞ってほしい対象であるが、生徒はいつまでも子どもではいられない。年齢が上がるとともに、「楽しい」か否かという基準だけでは計れない新しい価値を獲得し社会に出ることを求められるなかで、諸手を挙げて「楽しい」とは言い難いという生徒の回答は、自己を変化させ社会化しようとする意識の表れではないだろうか(故に特進コースは「楽しい」が少ないのだろう。今は大変かもしれないが、頑張っていて欲しい)。

昨年度の報告を受けて、質問項目を従来の10項目から修正を加えた13項目に増やし、答えやすい形式に再編しました。

アンケートへの御協力ありがとうございました。

惺山高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校づくり、そして在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。

今後とも本校の教育の改善にご協力とご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

担当者：教頭 松井寿夫